

# 地方創生関連交付金活用事業 実績シート

2019（令和元）年 効果検証

地方創生推進交付金事業 実績シート①

事業名	地域の“芽”をパパの“目”で育てる「佐野パパプロジェクト」(市事業名：佐野パパプロジェクト推進事業)												
担当課	都市ブランド推進室	事業実施年度	平成30年4月から 平成31年3月まで	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	安定したしごとをつくる 新しい人の流れをつくる	実施方法	直営						
事業の概要	誰よりも地元(佐野市)を知り尽くし、地元を愛しているパパたちが本事業の主体となるが、このパパたちの人材育成を進めながら新たな地域産品等の発掘から開発、その育成プランを策定し、佐野市を代表できる商品として積極的に地域外に向けて販売することで、収益を生み出し雇用を創出させるとともに、佐野市の認知度向上や観光誘客を図る。					予算状況	<table border="1"> <tr> <td>総事業費(千円)</td> <td>14,999</td> </tr> <tr> <td>交付金額(千円)</td> <td>7,499</td> </tr> <tr> <td>一般財源(千円)</td> <td>7,500</td> </tr> </table>	総事業費(千円)	14,999	交付金額(千円)	7,499	一般財源(千円)	7,500
総事業費(千円)	14,999												
交付金額(千円)	7,499												
一般財源(千円)	7,500												
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		目標値	実績値	達成状況の説明								
	KPI①	パパグループ活動回数(回)	24回	29回	全体での会議回数だけでも目標を上回ったが、このほか必要に応じて数名のメンバーで活動するなど、積極的な展開となった。								
	KPI②	年間観光入込客数(千人)	9,725千人	8,741千人	平成30年度までの事業期間中に972万人まで入込客数を増加させる目標値と定めたが、30年度においては達成することはできなかった。								
	KPI③	地域活性化プランのプラン(もしくは商品アイテム等)実行検討数(本)	2本	1本	前年度、約150の候補の中から決定した1つについてプランシュアアップを行い、商品化を行った。								
活動状況	<p>4~5月：販売化に向けた商品開発 6月：商品化・名称「佐野黒から揚げ」に決定 7月：販売開始 7~9月：販売店舗の拡大、イベントへの出店 7月~：惣菜キット商品化の検討 10月：佐野から揚げ協会設立 12月：佐野から揚げマップ作成、市外へのプロモーション 12月~：グループの自走に向けた仕組みづくり・法人化への検討</p>		主な効果	<p>前年度開催したテストマーケティングイベントの結果を受けて、商品のブラッシュアップを図り、新グルメ「佐野黒から揚げ」を完成させた。その後市内店舗で販売を開始し、20店以上の店舗で販売を開始した。この「佐野黒から揚げ」をきっかけに、各店舗での販売・イベントへの出店機会が増加し、中には売り上げが2倍になる店舗も現れた。さらに事業者同士が「佐野から揚げ協会」を設立して、連携して活動を始めた。 また、食品加工メーカーと連携し、お土産用としての惣菜キットの開発も開始し、次年度以降、地域ビジネスとして継続していくための体制づくりを行った。</p>									
取組の検証	改善余地の検証	地域ビジネスとして確立させる。											
	今後の方針について	<p>市の事業としては平成30年度で終了した。 今後は、活動に参加したメンバーがこの活動で得たノウハウを活用し、法人を立ち上げて、地域ビジネスとして継続できる体制づくりを確立させる。また、佐野から揚げ協会など市内事業者も、主体的に「佐野黒から揚げ」をPRすることで地域活性化と本市への誘客を図る。さらに市では「佐野黒から揚げ」を平成31年度のピックアップブランドとし、メンバーや事業者と連携した取組を行い、本市のPRを行う。</p>											

## 地方創生推進交付金事業 実績シート②

事業名	「クリケットタウン佐野」創造プロジェクト（市事業名：「クリケットタウン佐野」創造プロジェクト）												
担当課	スポーツ立市推進課	事業実施年度	平成30年度	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	安定したしごとをつくる 新しい人の流れをつくる	実施方法	直営						
事業の概要	日本ではマイナーだが、世界ではサッカーに次ぐ世界第2位の競技人口を誇るグローバルスポーツ「クリケット」をまちづくりの核として活用し、さまざまな取り組みを行う。そして、整備した国際クリケット場へ多くの誘客を図り、ここを拠点とした人の交流を生み、ここから新たな仕事づくりへとつなげていく。					予算状況	<table border="1"> <tr> <td>総事業費（千円）</td> <td>74,266</td> </tr> <tr> <td>交付金額（千円）</td> <td>37,133</td> </tr> <tr> <td>一般財源（千円）</td> <td>37,133</td> </tr> </table>	総事業費（千円）	74,266	交付金額（千円）	37,133	一般財源（千円）	37,133
総事業費（千円）	74,266												
交付金額（千円）	37,133												
一般財源（千円）	37,133												
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		平成30年度 目標値	平成30年度 実績値	達成状況の説明								
	KPI①	クリケットタウンを通じた地域内での創業件数	8件	1件	事業推進主体となる合同会社の設立のみにとどまった。								
	KPI②	外国人宿泊数	1,241人	971人	国際クリケット場整備後、芝の養生期間もあり、国際大会誘致ができなかった。								
	KPI③	クリケット場入場料	3,000千円	156千円	有料イベント参加料（テント貸出・セミナー受講）								
	KPI④	クリケット関連産業を通じた域内消費増額	51,100千円	34,358千円	参加者7,934人1,215泊（JCA調べ）PRイベント来場者2,700人								
活動状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域価値創造マネージャー 秋山仁雄氏着任活動開始</li> <li>・地方創生に関する包括連携協定の締結</li> <li>・「クリケットタウン佐野」創造プロジェクト推進事業補助金交付事業内容（主なもの） マネージャー人件費 プロジェクトプロモーション事業 プロジェクト活動拠点基本計画策定 ホームページ等作成業務</li> </ul>			主な効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マネージャー着任から各種イベント開催により、本プロジェクトやクリケットを活用した地方創生に取り組む佐野市について、広く周知できた。（各国大使館、メディア、民間企業とのネットワーク構築）</li> <li>・ホームページ、ツイッター、フェイスブックを立ち上げ、情報発信をスタートさせた。</li> </ul>								
取組の検証	改善余地の検証	マネージャー任せにするのではなく、行政側もしっかり連携を強化するとともに、役割を明確にしプロジェクトを推進していく必要がある。											
	今後の方針について	事業の自立化に向け、早急にクリケット場の都市計画規制・校舎リノベーションプランやコストをまとめていく。											

地方創生推進交付金事業 実績シート③

事業名	ツール・ド・とちぎを核とした地方創生推進事業（市：ツール・ド・とちぎ参画事業）							
担当課	スポーツ立市推進課	事業実施年度	平成30年度	佐野市まち・ひと・しごと 創生総合戦略基本目標の該当	安定したしごとをつくる 新しい人の流れをつくる	実施方法	直営	
事業の概要	第3回 ツール・ド・とちぎの開催支援 栃木県と県内全市町の連携事業 国内初の取組となる県内全域を舞台とした国際自転車競技連合公認レース「ツール・ド・とちぎ」の開催を契機に、県と県内全市町が連携した「自転車によるまちづくり」を進め、一層の観光誘客、地域活性化につなげていく。					予算状況	総事業費（千円）	700
						交付金額（千円）	350	
						一般財源（千円）	350	
重要業績評価指標 (KPI)	指標名称		平成30年度 目標値	平成30年度 実績値	達成状況の説明			
	KPI①	(全県)公営レンタサイクル利用者数	58,902人	73,482人	本市には公営レンタサイクルなし			
	KPI②	ツール・ド・とちぎ公式HP閲覧回数	20.40万回	21.61万回				
	KPI③	(全県)外国人宿泊者数	250千人	223千人				
	KPI④	(全県)観光消費額	6,410億円	7月公表予定	フィニッシュ会場でのアンケート、事業費等から算定			
活動状況	<p>[主催] 特定非営利活動法人ツール・ド・とちぎの会</p> <p>[主管] ツール・ド・とちぎ実行委員会</p> <p>[大会期間] 平成31年3月22日から3月24日 3日間 第3回・第4回の2大会で県内全市町を通過予定 今回、佐野市内がコースとなった。</p> <p>○佐野市の業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大会負担金支払（700千円）</li> <li>・交通立哨業務 153名（市職51（ボラ3含む）・県職51・民間51）</li> <li>・実行委員会、担当課長会議出席</li> <li>・大会周知ポスター掲示、広報さのにて大会・交通規制周知</li> </ul>			<p>主な効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・約79,000人の観客動員（全体：前年71,900人）</li> <li>・官民連携オールとちぎ体制で実施、自転車先進県とちぎの発信や観光誘客など、とちぎの地方創生に一定の成果</li> <li>・県全体経済波及効果：約11億3千万円（観客消費、大会運営費、関係者消費等から算出：前年11.1億円）</li> </ul>				
取組の検証	改善余地の検証	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度、佐野市通過予定なし。次年度以降の大会については、今年度実行委員会で検討予定 同様の形式での継続であれば、参加について慎重に対応したい。</li> </ul>						
	今後の方針について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この大会による自転車ツーリズム機運の高まり、葛生地区・民間で動き出した「サイクルタウンくずう」の取組を注視し、市としての方針を検討していく。</li> </ul>						